

第2部門A 郵便史・日本

右書き櫛形印 C欄都道府県型 すずき 鈴木 としゆき 敏之 (茨城県) ④

右書き櫛形印 C欄都道府県型は昭和18年6月頃から昭和25年頃まで使用された。この印が使用された時期は戦中戦後の混乱期であり郵便料金は第1種郵便で7回変更されている。この展示では、各時期における通常郵便、特殊取扱郵便(速達、書留、速達書留)の使用例。第3種、第4種、盲人用点字使用例。封緘葉書、郵便切手付封筒、その他。国体、国立公園、記念切手の使用例。各都道府県別の使用例をまとめた。

右書き櫛形印
C欄都道府県型

右書き櫛形印 C欄都道府県型

昭和18年6月頃から昭和25年頃まで使用された。A欄右書き局名、C欄右書き都道府県名の櫛形印。
この印が使用された時期は戦前戦後の混乱期で、郵便料金の改定が頻回にあり、郵便史上興味深い。

リーフ
1~4 C欄都道府県型櫛形印の説明、消印バラエティー
5~14 通常郵便(第1種、第2種)
15~20 通常郵便(第3種、第4種、盲人用点字)
21~35 特殊取扱郵便(速達、書留、速達書留)
36~38 外信便
39~43 封緘はがき、郵便切手つき封筒、記念はがき、その他
44~57 記念切手(国体、国立公園、小型シート、その他)
58~64 都道府県別使用例

昭和18年2月11日に時刻表示を廃止し欄に三墨が使用された。 昭和18年6月頃にC欄都道府県名の活字が配給された。 C欄都道府県名は全部郵便局に行き渡ったわけではなく、一部局ではC欄三墨のままであった。 昭和24年10月1日にC欄時刻表示が復活。多くの局では昭和25年まで都道府県型が使用された。



昭和18年7月1日
快速日本橋 三墨



昭和18年6月11日
亀戸天神前 東京都



昭和18年8月11日
飯代駅前 三墨



昭和24年11月16日
**上分 后8-12



昭和25年2月2日
大崎 東京都

右書き櫛形印
C欄都道府県型

速達書留書状

40円 (5円+速達15円+書留20円)
昭和23年7月10日~24年4月30日



23.9.6 江東愛宕 北海道

58円 (8円+速達30円+書留20円)
昭和24年5月1日~26年3月31日

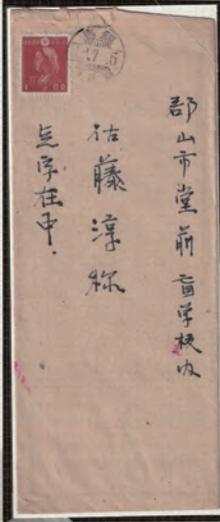


24.10.29 下野 東京都

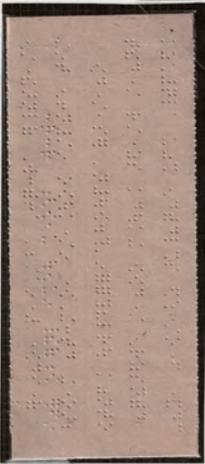
右書き櫛形印
C欄都道府県型

盲人用点字(第4種)

1銭 昭和17年4月1日~20年3月31日



1銭 女子行員
18.7.5 福高 福高縣



同額の点字

右書き櫛形印
C欄都道府県型

第2回国体切手 昭和22年10月25日発行

第2回国体は石川県で開催された。
夏季 8月22日~8月31日
秋季 10月30日~11月3日



22.12.5 奈良 奈良縣



飛び込み
22.11.3 神奈川縣



円盤投げ
22.10.27 横濱買 神奈川縣
発行2日付



ハローボール
22.11 大塚寺 石川縣
大塚寺町では車輪が閉鎖された



初日カバー 22.10.25 東京中央 東京都